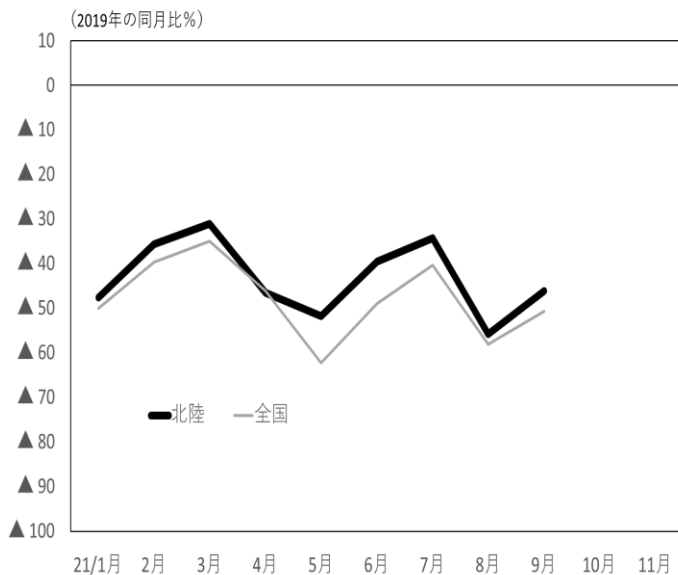


## 北陸の飲食店における売上動向について

○ 10月の北陸の飲食店の売上高は、2019年の同月比▲32.1%と前月から改善した。

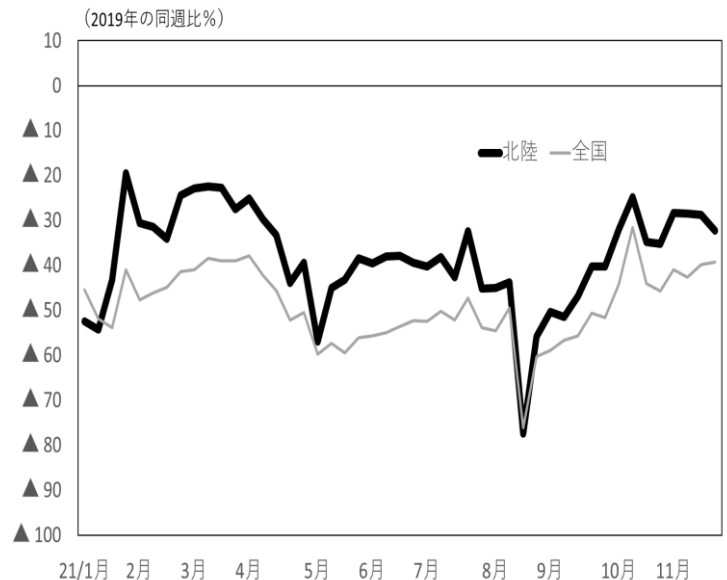
【図表1】百貨店・スーパーの「食堂・喫茶」の売上高



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 対象は、「食堂・喫茶室・すし屋などその場で顧客に飲食させるもの」。北陸は、百貨店4先・スーパー約140先。

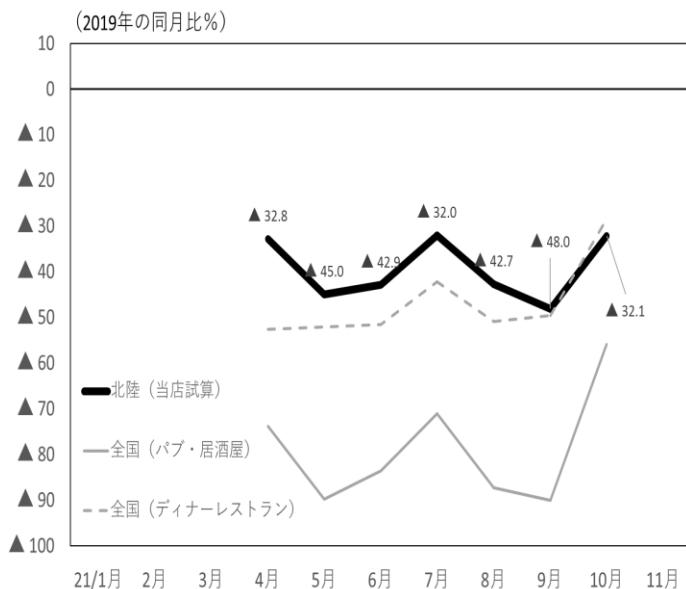
【図表2】飲食店のWEB情報の閲覧数(週次)



(出所) V-RESAS

(注) 北陸は、富山・石川・福井の単純平均。対象は、ファミレス・ファーストフード、カフェ・スイーツ、和食、洋食、中華、居酒屋・バー、肉料理などの全業態。

【図表3】酒類を提供する飲食店の売上高



(出所) 日本銀行金沢支店、日本フードサービス協会「JF外食産業市場動向調査」

(注) 対象は、北陸が、個人事業主を中心とする約1,000店(推計)。全国が、同協会に加盟する大～中小企業の約3,300店。パブ・居酒屋は「食事と酒類」を提供。ディナーレストランは「食事を中心」に提供。フードとドリンクの割合は非公表。

### 「北陸」の当店試算について

○ 酒類を提供する飲食店の売上高については、全国ベースでは、日本フードサービス協会が集計・公表しているが、北陸ベースの統計が公表されていない。このため、飲食店向けに食料・飲料を販売している企業やガス等を供給している企業からデータ提供を受け、当店で試算を試みた。

<試算の前提>

○ 売上高(コロナ前)の7割がフード、3割がドリンクと想定。

—— 一般に、フードとドリンクの割合は、居酒屋では6:4、ディナーレストランでは8:2が目標とされている点を参考にした。

○ 飲食店向け食料の販売量およびガス供給量を「フード」の代替変数、飲料の販売量を「ドリンク」の代替変数と仮定し、各データの伸び率を単純平均したうえで、フードとドリンクの割合が7:3となるよう加重平均。

以上